

SSU NEWS

SHIZUOKA SANGYO UNIVERSITY

NOV. 2023
VOL. 38
静岡産業大学広報誌

SSU NEWS NOV. 2023 VOL. 38



研究のこんなところが面白い!を静岡産業大学の教員が

リレーエッセイ形式でWeb公開中!

Webサイトは
こちらから!



学

生の頃、試験が近づくと無性に部屋の片づけをしたくなつて、よく夜遅くまでそこそそしていたものだ。皆さんにもそんな経験があるだろう。試験があるのだから試験勉強をすればよい、などということは言われなくても分かつていた。しかし、どうにもこうにも勉強が手につかず、勉強を先延ばしにしてしまうのである。一体これはどうしたものなのか?更に厄介なことに、この先延ばしの癖、簡単には抜けないうようなのである。

心理学ではこのような先延ばしの行動を、セルフ・ハンディキャッピング(以下SHCと略)と呼んでいる。皆さんも聞き覚えがあることだろう(1)。SHCには大きく分けて二通りあるという。例えば、試験前に部屋の片付けをするように、ハンディキャップが実際の行動として遂行されるものを遂行的SHCと呼ぶ。一方、隣の部屋の住人が夜中までうるさくて勉強に集中できなかったなどと、友人に自らのハンディキャップを主張するような場合を主張的SHCと呼んでいる(2)。いずれにせよ、失敗しても自分の能力のせいではなく、うまくいけば努力せずに自分の能力が高いことを示すことができるかもしれないという、一石二鳥の言い訳戦

略というわけだ。しかし、そんな言い訳や先延ばしをして、実際の結果はどうだったのだろうか?おそらく、そんな状態で受けた試験はうまくいかなかったはずだ。試験準備を十分にした学生としない学生とのSHCと成績を比較した研究がある(3)。試験準備を十分にした学生はSHCが少なく、成績も良かった。一方、試験準備を十分に

試験が近い、
さあ!部屋の片付けをしよう!

経営学部/教授
山田 一之

それでは、なぜ人はSHCという行動をとるのだろうか?嫌な事態を避けて通ることを心理学では回避(5)と呼んでいる。つまり、SHCは「嫌なこと」を避けることで、行為者が感じている「試験勉強が嫌だ」といった負の感情を和らげていると考えることができるといえる。負の感情の緩和が報酬となることで、SHCが維持・強化されているということができるかもしれない。しかし、「試験勉強が嫌だ」という負の感情を緩和できたとしても実際の試験は回避できない。準備不足で試験を受けて成績が悪ければ、結局のところ負の感情に苛まれるはずだ。試験の後、「やっておけばよかった」と後悔した覚えがあるだろう。ところが、ここに大きな落とし穴があるのだ。ヒトには往々にして、将来の大きな報酬よりも、我慢しないですぐに手に入る小さな報酬の方を選んでしまう傾向がある(6)。つまり、しっかりと試験勉強をして良い成績を収めることによって得られる大きな達成感よりも、眼前の試験勉強から逃げることによって得られるほんの小さな安楽を選んでしまうのだ。この落とし穴にはまらないためには、「ヒトとはそういうモノなのだ」と、ことあることに思い出す必要があるのだろう。

【註・引用】(1) 伊藤忠弘、セルフ・ハンディキャッピングの研究動向、東京大学教育学部紀要、1991:31:153-162。(2) 沼崎誠、受け手が抱く印象に獲得のおよび主観的セルフ・ハンディキャッピングが与える効果、実証社会心理学研究、1995:35(1):14-22。(3) 吉武久美子、セルフ・ハンディキャッピングに関する研究、純心人文研究、2001:7:17-24。(4) 沼崎誠、和田万紀「いいわけ」が受け手に与える印象-セルフ・ハンディキャッピング的「いいわけ」-、日本心理学会第54回大会発表論文集、59。(5) 学習心理学において、回避と類似した用語に逃避がある。回避は嫌なことが起きる前に逃げるのに対して、逃避は嫌なことが起きるからその場から逃げることを示す。詳細は『レイノルズ(浅野俊夫 訳)「オペラント心理学入門-行動分析への道」1978年、サイエンス社などを参照。(6) 時間価値割引については、『大竹文雄・田中沙織・佐倉統(著)「脳の中の経済学」2012年、ディスカバー・ブックス092』が分かりやすい。

【発行】SSU NEWS企画・編集会議
【発行日】2023年11月15日発行

静岡産業大学

藤枝キャンパス/〒426-8668 静岡県藤枝市駿河台4丁目1番1号 TEL 054-645-0191(代表)
豊田キャンパス/〒438-0043 静岡県豊田市大原1572番地1 TEL 053-37-0191(代表)
藤枝駅前サテライトキャンパス BIVキャン/〒426-0067 静岡県藤枝市前島1丁目7番10号 TEL 054-639-7164



静岡産業大学

大学ホームページはこちら▶



Instagramはこちら▶



特集

1

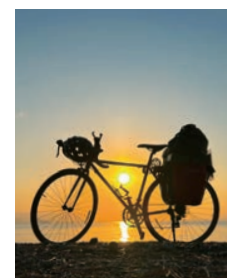
考えてみよう、一人ひとりができる防災対策。

静岡産業大学

SSU

から発信中!!

一人ひとりが 主役となり、 未来へ羽ばたく。



自転車で日本一周を達成。 未来を見つめて走った136日間

地元・新潟へ自転車で帰省したのをきっかけに、自転車による日本一周の旅に繰り出した皆川さん。1日平均120km走行し、今年8月に136日間の旅を終えた。旅路で出会った、同じく日本一周をする若者や、食事や安否の心配をしてくれた人たちは今も親交が続いているという。「走りながらずっと未来のことを考えていました。この経験が将来にどう活きるのかわかりませんが、まっすぐ前に進んでいきたいです」

経営学部 経営学科
皆川 遥一さん 4年
新潟県立三条商業高等学校出身



SPECIAL FEATURE DISASTER PREVENTION

特集1

考えてみよう、 一人ひとりが できる防災対策。

私たちは、災害と聞くと地震をイメージすることが多いかもしれませんが、近年、地震だけではなく台風、水害、竜巻、山火事などあらゆる災害が日本全国で起こっています。このような自然災害を防ぐことは困難です。しかし、被害を減らす（減災）という視点で考えるとどうでしょうか。

静岡県は南海トラフ巨大地震の想定範囲に含まれており、従前より災害に対する意識は高いといわれ、減災への取り組みも盛んに行われています。

わたしが学校や自治体等で行ってきた防災訓練に加えて、広域連携や防災対策の見直しなどを検討する動きも活発化しています。



「災害用備蓄倉庫」を見直す

実は身近なところにある「災害用備蓄倉庫」ですが、中を見たことはありますか？そこには、非常時に被災者へ提供するための飲料水などの「備蓄品」が収納されています。

一般的には、地域が自主的に管理している倉庫と、自治体が管理している倉庫を見かけることが多いのではないのでしょうか？いずれも、地区の公園に設置されているケースが通例です。

一例として自治体が管理している倉庫を見ると、飲料水や非常食、非常トイレなど、およそ49種類の備蓄品が収納されています。しかしとりわけ「備蓄食料品」は約42%が廃棄されるという報告もあります。これを廃棄せず、別の用途を見出せないのでしょうか。

一方で、「災害用備蓄倉庫」そのものですが、なぜ公園などに設置されているのでしょうか。もしも倉庫が被災すれば、「備蓄品」がなくなってしまう。つまり、倉庫を設置するべき最適な場所はどこなのかなど、あらゆる課題について検討すべきと指摘する研究もあります。

減災という点で考えると、私たちが日常的に行うべき予防的な取り組みは無数に存在するのかもしれませんが、「備蓄食料品」を再利用するというアイデアがあっても、「災害用備蓄倉庫」そのものが安全な場所に設置されていなければ、私たちの暮らしに安心の灯をともすことは難しいでしょう。

そのためこうした都市の課題、社会の課題を解くべく、静岡産業大学では、産学

官民連携でのプロジェクトを多数立ち上げて挑んでいます。



岩本 武範 准教授

博士（工学）。専門は、都市社会工学・ニューロマーケティング。社会課題をビジネスで解くことを研究の成果目標としている。



冠講座

講座名（企業名）：
静岡市／磐田市

科目名：
防災・減災と生活

本学の特色である「冠講座」は、静岡県に必要な人材を、大学と地域社会が一緒になって育てようという精神のもと、静岡県と関係の深い企業、団体・行政機関で働く人が講師となり、半期の授業を行う講座です。リアルな仕事の内容や課題、最先端の取り組み事例など、現場にいる人だからこそ語れる貴重な話を聞くことができます。



詳しい講座内容 ▶ P 05

防災の視点からウェルビーイングを考えるまちづくり
ーデジタル防災ワークショップー



静岡県内の自治体（静岡市、静岡市、藤枝市、焼津市、磐田市）、企業2社、岩本ゼミの学生が集まり防災政策の社会課題を具体的に解決するアイデア創出を行いました。現在、民間企業とアイデアを実現する取り組みを検討しており、今後の社会実装に向けた第一歩を踏み出しました。岩本ゼミでは、この成果を各自治体にフィードバックし、その後学会等へ研究論文として報告することを考えています。



自治体×企業×学生で
地域防災の未来を考える



自分で情報収集することも大切！図書館やネットを活用してみよう！



図書館「防災」企画展示
毎年9月、3月



防災アイデア満載の
キャンプ本やグッズを展示

豪雨や地震などの災害は突然起こるもの。本学の図書館では、定期的に防災や減災について考えてほしいと、毎年9月と3月に「防災」をテーマに企画展示を行っています。「防災」や「災害対策」にも役立つ情報が満載のキャンプの書籍をピックアップして紹介し、防災用品チェックリストや防災グッズの実物展示をしています。



大学の対策
防災訓練・研修／備蓄品管理



本学では、毎年、防災訓練（避難訓練・消火訓練）を行っています。また災害について学ぶ機会として、市民向けに公開講座を実施しています。学内の防災倉庫には全学生3日分の非常食等を備蓄しており、賞味期限が近づいてきたものは、学生や教職員に配布を行い食料ロス対策もしています。



オープンキャンパスでは、オリジナル防災セットを高校生に配布しました！



磐田市冠講座：防災・減災と生活
災害ドローンの活用



災害時にどう役立つ？
ドローン活用方法を学ぶ



磐田市の防災対策について磐田市職員から学びました。今回のテーマは、「災害時のドローン活用について」です。ドローンは人が立ち入れない被災地の状況を客観的にいち早く捉えます。更に熱エネルギーを検出して可視化できる赤外線カメラを搭載することで人命救助に役立ちます。磐田市では、2台のドローンを所有し、災害時に備えています。

授業で学べるのが魅力！
住んでいる地域に合った
防災対策を行うことを心がけるきっかけになります。



ドローン操縦を体験！
避難タワー＆防潮堤も見学



ドローンの操縦体験を行いました。初めてドローンを操縦する学生が多く、操縦方法から教わり、一つひとつ確認しながら挑戦しました。カメラの映像を見ながら上下左右に動かしてみたり、うまく着地できるか比べたりしながら基本的な操縦方法を学びました。座学だけではなく、磐田市の津波避難タワーや、防潮堤の見学など実際に体感しながら防災対策について学べます。



防災の対策、
何をしていますか？

地震や津波、豪雨などの災害に対して、
大学は市や企業とどのように連携して、
対策に取り組んでいるか紹介します。

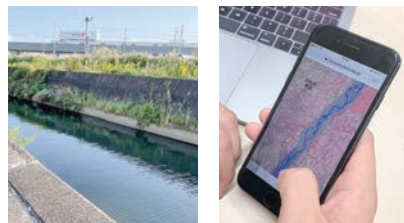


経営学部	経営学科	3年
青山 彰剛 さん	石川県立鶴来高等学校出身	

一人暮らし *Living alone*

① 浸水被害経験から防災を再考。

2023年6月、台風2号による大雨でアパート前の川が越水。原付バイクが浸水し、あらためて防災対策の重要性を感じました。



アパートの数メートル先を流れる川。6月の記録的豪雨では、一階のベランダギリギリまで水が押し寄せました。

② 水と食料はすぐに確保。

浸水被害に遭い、実家の両親から水と食料、懐中電灯をすぐに準備するよう連絡を受けました。今は避難靴の用意も万全です。



RECOMMENDATION

すぐに避難できるよう、ベランダにスニーカーを置いています。

MY ROOM



卓上ガスコンロとレトルト食品。食料はローリングストック法で管理。

DISASTER PREVENTION IN MY HOME 私の防災対策

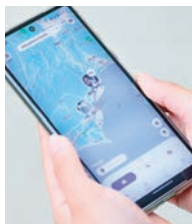
実家暮らし *Living at home*

① 1週間の断水を経験。

2022年9月、実家のある清水区では台風の影響で1週間の断水が発生。防災対策の大切さを身をもって知りました。



愛猫のマーブル。猫を連れて避難できるか、避難所生活ができるかが心配のタネになっています。



② 必需品の備蓄を習慣化。

断水を経て、水・食料をローリングストックし、おしりふきを備蓄。懐中電灯は以前から、玄関と各部屋に配置しています。

③ アプリで位置情報を共有。

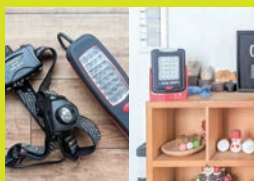
私が高校生の時からGPSアプリで家族と位置情報を共有しています。足跡機能や緊急通知機能もあって安心です。



RECOMMENDATION

救急救命士の兄の手配で、家族分の水を十分に確保しています。

MY ROOM



ヘッドライトと懐中電灯。父の提案で家族みんながマイライトを所有。



経営学部	経営学科	2年
松本 一花 さん	清水国際高等学校出身	

STUDENT VOICE

防災講座を受講して



経営学部 経営学科

遠藤 千尋さん 3年

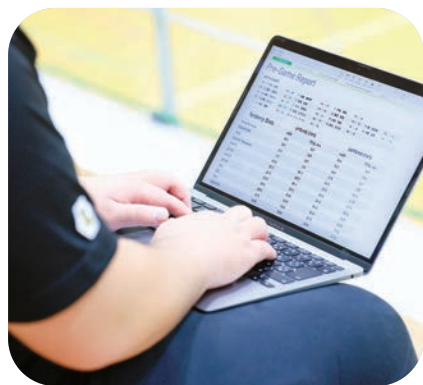
静岡県立清流館高等学校出身

「住民と市区町村の合同避難訓練」が実現できればと思います。

9月22日、防災講座「防災の視点からウェルビーイングを考えるまちづくり」に参加しました。講座では、静岡県、静岡市、藤枝市、焼津市、磐田市の市役所職員と企業の方、学生でグループディスカッションを実施。まちの課題として特に印象的だったのは、市が保有する備蓄品の管理方法です。例えば、懐中電灯が欲しいときにピンポイントで取り出せるのか、隣市で災害が起こったときに備蓄品をすぐに分けられるのかななどの仕組みづくりが迫られている点です。これらを踏まえ、私は「住民と市区町村の合同避難訓練」を提案しました。備蓄品の点検・管理も含まれますが、まちの防災対策を市役所で抱えすぎている印象を受けたためです。一緒に対策を考えて分担すれば、できることが増えるはずですし、住民としても自治体の防災対策の状況が分かり安心感につながります。

受講後、家族で防災について話し合い、それぞれに意識の変化が見られました。まず、妹と弟は学校で実施される避難訓練にきちんと参加しようという気持ちになったようです。父は棚の固定を検討し、母はさつそくりユック型の防災セットを購入。私は常備していた懐中電灯の保管場所をすぐに手に取れる位置に移動させました。また、講座では被災地域とハザードマップの情報が一致していたというお話を聞いたため、あらためてハザードマップを確認し、避難経路を家族と共有しました。こうした身の回りの防災対策をしつつ、市区町村とのつながりをもっと深めていきたいと感じています。それにより市民にできることが増えたら、助けを求めている方によりきめ細かなサポートが行き届くはずです。今後、市区町村と防災の情報交換などを行える座談会があったら、ぜひ参加したいです。

チームの中で一歩先を行く存在でありたい。
新しい出会いが、私を成長させてくれました。



大学2年の冬にチームと契約

山梨クイーンビーズ（以下、山梨QB）は、国内女子バスケットボールの最高峰リーグに所属するチーム。私がスポーツアナリストとしてチームに加入したのは2022年12月、大学2年生の時でした。きっかけは「言でいうと、人との縁です」。

まず入学後、大学の女子バスケットボール部に学生コーチとして採用してもらえたことが大きかったです。私自身もコーチングのレベルを上げるために、「ハドル（Huddle）」というアシリート向けのパフォーマンス分析ツールを独学でマスターしました。それを知った先生が、バスケット部で正式にハドルを導入したらどうかと、費用や運用面で働きかけてく

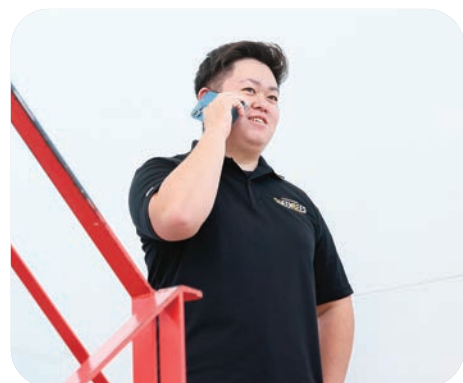
だきました。

この分析ツールを提供するハドル社は米国の企業で、バスケのほかにラグビーやサッカー、バレーボールなどのパフォーマンス分析において世界的シェアを誇ります。部活で活用していく中で、ハドル社の日本チームとの交流も生まれ、ハドル社から「山梨QBでスポーツアナリストのインターンを集めているから会ってみたいか」と声をかけていただいたのです。最初はインターンという話でしたが、テスト分析などを行ううちに正式採用となりました。

私のスキルを評価してくださったのもあるかと思いますが、山梨QBの監督が大学や出身高校の監督と親交があり、先生方のサポートも追い風になったのではないかと感じています。

分析力と、聞く力・伝える力

スポーツアナリストは、さまざまなデータを収集・分析し、チームを勝利に導く人のことをいいます。山梨QBのスポーツアナリストに就任して感じたことは、選手のレベルの高さ、それに伴い求められるレベルも高いことです。そのため、今年8月にバスケット部のコーチを引退し、アナリストに集中できる環境を整えました。



苦労したのはコミュニケーションです。バスケットボールは攻守の入れ替わりが激しい競技のため戦術が多様であり、かつコーチによつて微妙に捉え方が異なります。コーチのニュアンスを正しく理解できるよう、聞く力と伝える力を鍛えているところです。

今シーズンはまだ始まったばかりなので分かりませんが、昨シーズンは私の中で一定の成果を挙げられたと自負しています。対戦相手のセットプレーなどを全て書き出し、「この方法を組み合わせれば山梨QBは勝つ」といった情報を提供し、それを基に戦術を立てて戦ったところ、見事勝利することができました。スポーツアナリストの醍醐味を感じた瞬間です。

将来は海外リーグに挑戦

スポーツアナリストに大切なのは、コーチや監督に読み解けない高度なデータを分析し、適切な方法・タイミングで提供することだと思っています。チームの中で、常に一歩先を行く存在でありたいです。

将来の夢は、NBAやヨーロッパなど海外リーグに所属するクラブのスポーツアナリストとして活躍することです。そのためには、目の前にあることに真剣に向き合い、経験を重ねて実力をつけていくことが大事。分析力や探究力を存分に発揮でき、私を成長させてくれ、必要としてくれた山梨QBに貢献していきたいと思っています。

スポーツアナリストとは

試合や練習などからあらゆるデータを収集・分析し、選手およびチームの目標達成をサポートするスペシャリスト。例えば、映像からパフォーマンスデータを取得して戦術に活かしたり、GPSで選手の走行距離を測定し、オーバーワークやケガを防いだりします。スポーツアナリストは勝敗を左右する重要な役割の一端を担うことから、近年需要が拡大している専門性が高い職業のひとつです。

[HU-MAN]

地域や社会で活躍している
在学生や卒業生の様子を紹介

スポーツアナリスト

山梨クイーンビーズ
バスケットボールクラブ

山本 悠太さん

スポーツ科学部 スポーツ科学科 3年
静岡学園高等学校出身



スポーツアナリストは数字マニアな方が多い印象があります。私も数学は得意な方で、特に証明の問題が好きでした。とはいえ、身体を動かすことも大好き。休日は仲間とロードバイクでサイクリングを楽しんでいます。

スポーツ科学×経営学×実践で、トップレベルの選手たちを
分析する「スポーツアナリスト」として活躍！

好きなバスケットを続けるために

子どもの頃からバスケットボールが好きでした。高校でもバスケット部に入学し、選手として第一線で活躍することを目標にしていたのですが、高一の夏に大きなケガをしてしまいました。冬に復帰したものの、思うようにプレーができず悩んでいた時、先生から「プロのコーチという道もあるぞ」とアドバイスを。そこからコーチングを学び始めたことが、現在のスポーツアナリストの道につながりました。また、仲の良いトレーナーから、「ケガをして悔しい思いをした経験は、必ず未来に生きてくるよ」という言葉も力になっています。

スポーツ科学×経営学の学び

静岡産業大学に進学したのは、実践で学べる環境が整っていたからです。プロスポーツ選手を多数輩出し、バスケット部においても東海二部リーグで戦える実力がある点が魅力でした。入学後に気づいた良い点は、スポーツ科学部でもあつても経営学部の授業を履修できること。データサイエンスの授業で学んだR言語は、アナリストの仕事にも活かしています。



PICK UP



オープンキャンパスは 学生のアイデアが盛りだくさん！

学生スタッフやゼミナールの学生たちがイベントを企画してオープンキャンパスを盛り上げます。教員による体験授業のほか、卒業生や企業の方が担当する体験授業も！藤枝キャンパスでは今年度「広報サークル」が発足!!学生目線でオリジナルグッズの制作やキャンパスツアー、イベントなどのプログラムを企画・実践しています。



一緒におしゃべりしませんか？何でもお答えします！

今までの個別相談は面談スタイルでしたが、私の提案で雑談スタイルにリニューアル！「聞かれたことは全て答えよう！」というスタンスなので、通学のこと、一人暮らしのこと、今悩んでいることなど何でも聞いてください。時間制限もありません。

経営学部 1年 加藤 進太郎 さん

学生企画を見てみよう



地域を盛り上げる！
「e-スポーツ体験会」

e-スポーツサークル

e-スポーツサークル所属の学生が、磐田商工会議所主催のイベントで磐田市長に提言した、磐田市をもっと盛り上げるためにも「e-スポーツを活用したまちづくり」プランをプレゼン！初心者でも楽しんでもらえるe-スポーツ体験会も開催し、盛況でした。



フードロス減らそう！
「規格外野菜販売」

太田裕貴ゼミナール

太田ゼミの学生が、味や栄養価は規格を満たした商品と同じなのに、売ることができず廃棄されてしまう「規格外野菜」の仕入れから販売までを全て行い、社会問題である「フードロス」の解決に取り組んでいます。枝豆の詰め放題など参加型の販売会を実施しました。



学生がデザイン！
「オリジナルグッズ制作」

広報サークル

広報サークルでは、「高校生がもらって嬉しい」をテーマにオープンキャンパスの限定グッズを企画。みんなで、アイデアを出し合い高校生に喜ばれるグッズが完成しました。オープンキャンパスで着用するスタッフTシャツのデザインも学生が行いました！

INFORMATION

浦田周社木版画美術館 文部科学大臣表彰 受賞記念特別展

輝け富士！

六世版隈 浦田周社が
浮世絵の伝統技法で描いた作品の数々

開館日／月～金曜日 9:00～18:30
※閉館時刻が変更になる場合があります
休館日／土曜日、日曜日、国民の祝日、本学行事開催日、大学休校日
入館料／無料
住 所／静岡産業大学藤枝キャンパス
(メディア・アートセンター藤枝図書館内)
〒426-8668 静岡県藤枝市駿河台4丁目1番1号



■ 大学行事予定 (2023年後期)



12月16日(土)	学内立入禁止	3月9日(土)	父母等相談会
12月23日(土)	冬季休講(～1月4日まで)	3月13日(水)	卒業式
1月12日(金)～14日(日)	大学共通テスト 学内立入禁止	3月18日(月)	学内立入禁止
2月9日(金)	成績発送	3月21日(木)・22日(金)	在学生オリエンテーション
2月15日(木)	学内立入禁止	3月23日(土)	オープンキャンパス
3月8日(金)	学内立入禁止	3月25日(月)	在学生オリエンテーション

■ 図書館のご利用について

	藤枝キャンパス		磐田キャンパス	
開館時間	月～金曜日	9:00～19:00*	月～金曜日	9:00～19:00*
休館日	土曜日、日曜日、国民の祝日、本学行事開催日、大学休校日			
利用資格	静岡産業大学学生・教職員、一般市民(高校生以上)			
お問い合わせ	054-646-5441		0538-36-8844	

※閉館時刻が変更になる場合があります。

■ 大学施設のご利用について

本学では、授業及びクラブ・サークル活動で使用する時間を除き、学外の方も大学施設を利用することができます。詳しくは各キャンパスの総務課までお問い合わせください。

	藤枝キャンパス	磐田キャンパス	BiViキャン(藤枝駅前サテライトキャンパス)
利用可能時間	9:00～21:00	9:00～21:00	9:00～21:00
主な施設	各種講義室、コンピュータ演習室、体育館、フットサルグラウンドなど	各種講義室、グラウンド、スポーツセンター、テニスコートなど	講義室、セミナールーム、活動交流スペースなど
お問い合わせ	054-645-0191(藤枝事務局 総務課) (受付時間 9:00～17:00)	0538-37-3851(磐田事務局 総務課) (受付時間 9:00～17:00)	054-639-7164 (受付時間 9:00～17:00)

※2023年5月15日より、学外の方の施設利用を再開しました。



EVENT



藤枝キャンパスで
留学生が母国の文化を紹介する活動をしました

土居 蘭子ゼミの学生が5週にわたりミャンマー、中国、ベトナム、韓国、日本と出身国を紹介する交流イベントを実施しました。このイベントは、多文化共生社会の実現に向けて、お互いの文化を知ること・友だちをつくることを目的としています。学生らは民族衣装を着用し、各国のお茶やお菓子を紹介、交流を深めました。「学生たちの居場所づくり」を考えている太田裕貴ゼミや国際交流会（部活動）、茶道部の協力もあり、学生の間に新たな関係が生まれた貴重な機会になりました。

ANNOUNCEMENT



知徳高等学校と教育交流協定を締結しました

8月17日、知徳高等学校（私立・駿東郡長泉町）と本学は、相互の教育資源を活かしながら、高大連携を積極的に進めることを目的に、教育交流協定を締結しました。今回の協定締結は、「高校までの学びを、大学での学びにつなげる」をテーマに、本学のマネジメントやスポーツ科学に関する専門的な学びに触れる機会を提供することで、高い知識と意識を持った高校生が大学に進学し、その専門性を高めていくことにより、地域社会の発展に貢献する人材を育成することを目的にしています。本学と県内高校の教育交流協定締結は、今回で24校となりました。

PROJECT



学生がジュビロ磐田ホームゲームイベントを企画・運営しました！

7月1日、ヤマハスタジアムでの大分トリニータ戦～ヤマハ・ヤマハ発動機マッチ～で、本学学生6名が中心となってイベントを開催しました。このイベントは、経営特別講座「スポーツイベント企画運営」の実践として学生らが取り組みました。本学には、静岡県と関係の深い企業、団体、行政の方が講師となり、仕事内容や課題、実務等を教えていただく「冠講座（寄附講座）」があり、（株）ジュビロ様の寄附講座ではJリーグクラブと地域社会との関係性や公式戦当日のイベント開催について学んでいます。来場者の皆さんに楽しんでもらうため、学生たちは真剣に企画に取り組みしました。この貴重な学びをぜひ将来に活かしてほしいと思います。来年度のジュビロ磐田ホームゲームイベントにもご期待ください!!

目指せ!! Jリーガー!～大学生が教えるサッカー教室～
昨年度のイベント時のアンケートで要望の多かった「小学生サッカー教室」を開催。事前受付の定員30名のところ、ジュビロ磐田HPで1週間のみの告知で、124名もの申し込みがありました。今年度いただいたアンケート結果はジュビロ磐田公式ブログ「JubiLOG」に掲載しました。
サインGet!?!～ブラジル料理を食べてクイズに挑戦しよう～
「地域のブラジル人にジュビロ磐田をもっと知ってほしい」というブラジル国籍の学生の思いを形にしようと企画し、ブラジル料理のキッチンカーを出店。掲示した二次元コードから参加できる「ジュビロ磐田クイズ」を実施し、抽選でジュビロ磐田の選手のサイン入りミニボールをプレゼントしました。約250名の方にクイズに参加していただくことができ、サインのプレゼントでは、皆さんが喜んでくださいました。

PROJECT



藤枝男子バレー部の学生が、海外ボランティアに参加しました！

8月21日～31日ラオス・タイ東北部イサーン地方にバレーボールを届ける活動に男子バレー部の五加龍之助さん、小西伸弥さん（ともに経営学部3年）が参加しました。この活動は、日本で古くなったバレーボールを発展途上国の子どもたちにプレゼントして、バレーを楽しんでもらうことが目的です。この地域ではバレーボールはとても高価で、一般家庭では手が出ません。しかし、1個のボールで楽しめるバレーは、現地で人気のスポーツです。更に今回、現地の大学や短大などの親善試合や、バレーを始めたばかりの子どもたちにサーブの打ち方やレシーブの姿勢など、簡単なバレー教室を開催して学生たちと親睦を深めました。五加さんと小西さんは、現地の食事やトイレ事情にかなり苦労したようですが、大変貴重な経験ができたことを喜んでいました。

※2009年より公益財団法人「日本民衆センター」が中心となって始め、本学バレー部は初年度より古くなったボールを他大学からも提供してもらい、プロジェクトに協力してきました。当初は「富士山プロジェクト」として始め、3,776個を目指していましたが、今年で延べ10,000個を達成することができました。



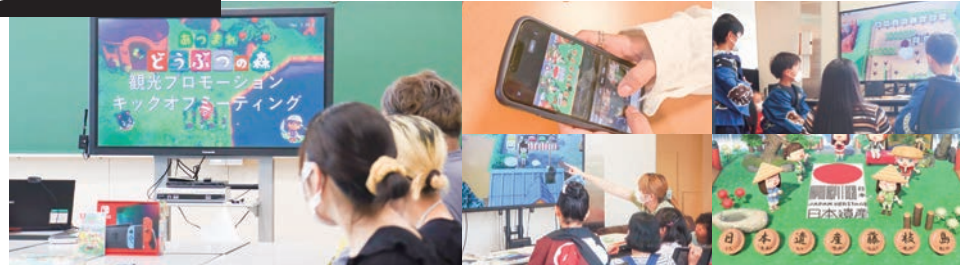
PROJECT



アート部のデザインが輝く
磐田駅前のイルミネーションがスタート

10月27日、JR磐田駅前北口多目的広場のイルミネーション点灯式が行われました。今年の装飾デザインは、磐田キャンパスのアート部が「広場をもっと若者に親しみのある場所にしたい」という磐田市観光協会からの依頼を受け、企画しました。テーマは「想いを伝える」。家族、友人、恋人、ペット、そして自分自身も含めて、大切な人への思いや感謝の気持ちを伝える場所として演出しています。イルミネーションは、来年2月14日まで点灯されます。

PROJECT



「あつまれ どうぶつの森 観光プロモーション」第2弾
歴史・文化を発信する藤枝の島が完成しました

Nintendo Switch®「あつまれ どうぶつの森」※を活用した観光プロモーション第2弾として、本学の学生（5名）と藤枝市職員によるプロジェクトが立ち上がり、この度「にほんいさんふじえだ島（とう）」が完成しました！
2021年に制作した「ふじえだサッカーの島」「ふじえだおちやの島」に続き今回3つ目の島の制作となりました。この島では、藤枝市の「歴史・伝統・文化」をテーマにして、藤枝大祭りや朝比奈大龍勢、日本遺産など藤枝市ならではの地域資源をゲーム内に再現しています。ゲーム完成のお披露目会として10月1日には、藤枝市民会館で開催された「藤枝大祭り地域の伝統文化体験会」にゲーム体験ブースを出展しました。制作に携わった学生

も参加し、ゲームや資料を使って、子どもたちに藤枝市の歴史文化や魅力について紹介しました。実際にゲームを体験した子どもたちは、再現度の高さにびっくりしており、楽しんで歴史を学んでいました。
制作した島「にほんいさんふじえだ島」は、ゲーム機がなくても楽しめるように学生が紹介動画を制作しました。藤枝市立小中学校の全児童生徒に一台ずつ配備されているタブレット端末にも動画を配信し、子どもたちが楽しみながら歴史や文化を学ぶ機会を創出します。Nintendo Switch®「あつまれ どうぶつの森」を持っている方はぜひ、島に遊びにきてください!持っていない方も楽しめる島の紹介動画を藤枝市ホームページにアップしていますので、ぜひご覧ください。

※「あつまれ どうぶつの森」は、プレイヤーが島の中で建物や道を整備して島を発展させ、自由気ままに暮らしつつ、オリジナルの島をつくっていくことができるゲームです。